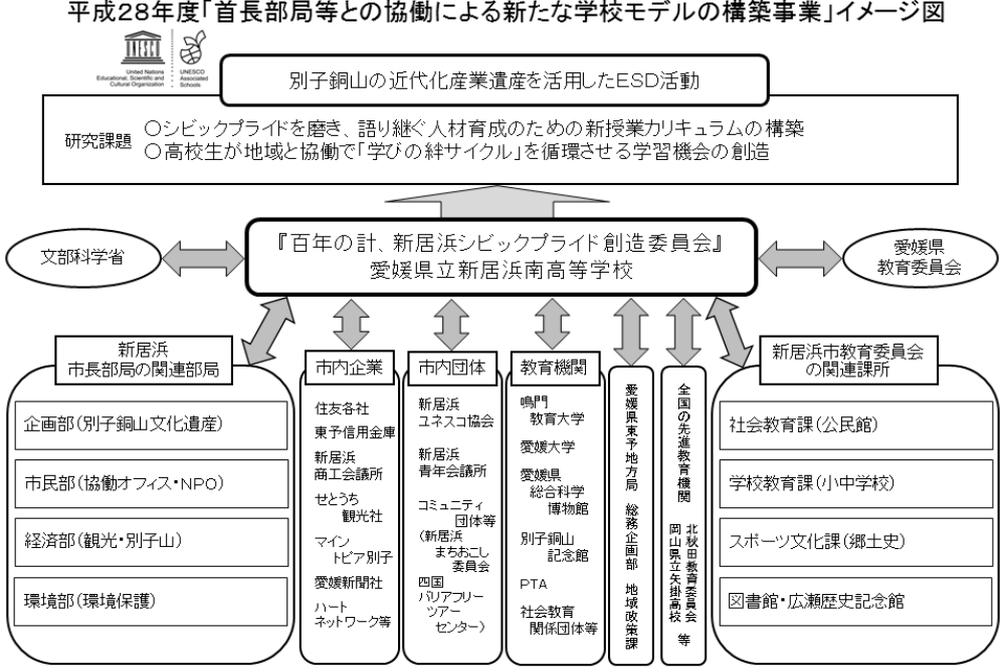


「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概要版】

教育委員会名	新居浜市
研究課題	<p>○シビックプライドを磨き、語り継ぐ人材育成のための新授業カリキュラムの構築</p> <p>○高校生が地域と協働で「学びの絆サイクル」を循環させる学習機会の創造</p>
研究のねらい	<p>○地域を語れる人材の育成 知識+実践→自己有用感→地域への愛着や誇り（シビックプライド）を育成。</p> <p>○首長部局等との連携・協働を通じて、高校生の地域社会の一員として存在意識の高揚。</p> <p>○社会の中で活動することで、高校生自らを客観視できる力や多様性を尊重する力を習得。</p> <p>○「学びの絆サイクル」を地域に構築することで、高校生が子どもや大人に教える力を習得。</p> <p>○高校生が生きていく力を総合的に習得することで、学校の社会的存在感の周知</p>
研究の概要	<p>事業イメージ図の様に、愛媛県立新居浜南高等学校（以下、新居浜南高校）に首長部局および大学、地元企業や団体等による『百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会』（以下、CP委員会）を設置した。</p> <p>新居浜南高校は、1999年より別子銅山の学習に取り組み、その評価を受け、2010年に四国初のユネスコスクールに認定されている。</p> <p>現在、「別子銅山の近代化産業遺産を活用したESD活動」をテーマに活動しており、このことを基軸に首長部局等との連携・協働を通じた事業実践を図った。</p> <p>平成28年度「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」イメージ図</p>  <p>The diagram illustrates the project's structure. At the top, a box labeled '別子銅山の近代化産業遺産を活用したESD活動' (ESD activities utilizing the近代化産業遺産 of Bessho Copper Mountain) is linked to research topics: 'シビックプライドを磨き、語り継ぐ人材育成のための新授業カリキュラムの構築' and '高校生が地域と協働で「学びの絆サイクル」を循環させる学習機会の創造'. Below this, the central focus is the '『百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会』 愛媛県立新居浜南高等学校' (CP Committee at Nishiyama High School). This committee is connected to several key partners: '文部科学省' (MEXT), '愛媛県教育委員会' (Ehime Prefectural Board of Education), '新居浜市長部局の関連部局' (City departments including Cultural Heritage, NPO, Economic, and Environment), '市内企業' (Local businesses like banks and companies), '市内団体' (Local associations like YMC and YWA), '教育機関' (Educational institutions like universities and museums), and '新居浜市教育委員会の関連課所' (City education committees including social education, elementary schools, sports, and libraries).</p>



秋田現地研修（尾去沢鉱山の見学）



秋田現地研修（阿仁合小学校との交流）



中学校へへの出前授業の様子



東京大学牧野篤教授によるスキルを磨く研修



ペルー駐日大使の別子銅山視察案内



百年の計、新居浜シビックプライド創造委員会

研究の成果

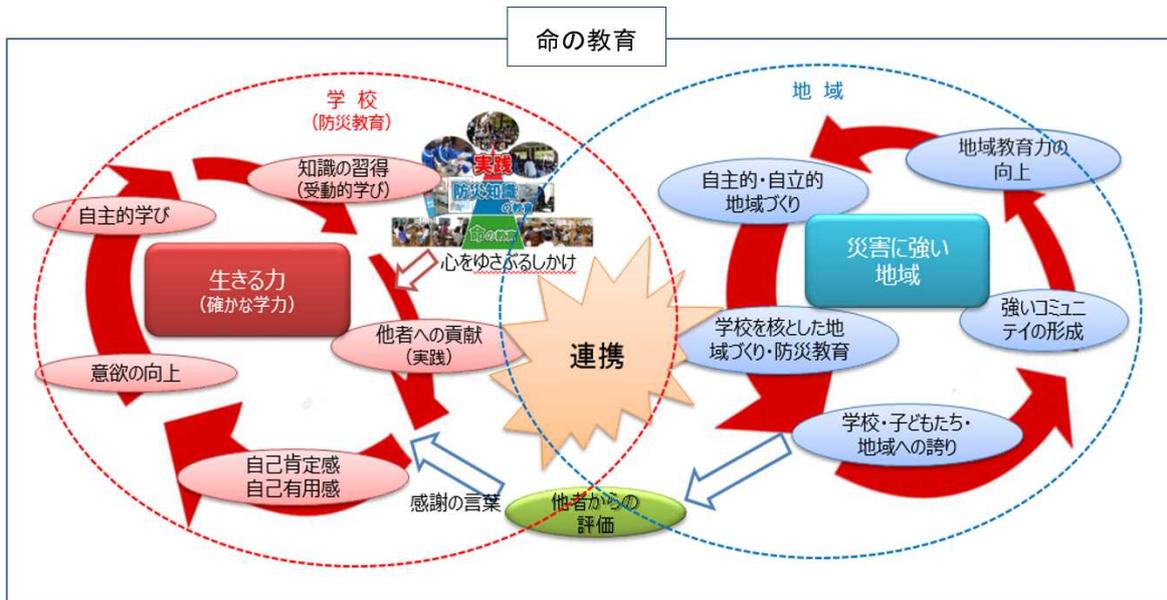
- 様々な団体や人々との繋がりが生まれるとともに、多様な人たち・文化等との交流により、視野の広がりやコミュニケーション能力が高められた。
- ふるさとへのシビックプライド（愛着心や誇り）のが芽生え始めてきた。
- まちへの関心が高まり、まちづくりへと意識が深化してきた。
- SNSや市政だより等による発信により、活動が広く周知されている。
- 新居浜南高校（総合学科）教育課程内に来年度「地域共創系列」を創設について、愛媛県教育委員会への承認が得られ、中学校への案内やメディアでの報道も行い、年間学習指導計画の作成など、実施に向けた具体的な準備がなされている。

本件  
問い合わせ先

新居浜市市民部地域コミュニティ課  
TEL:0897-65-1218 FAX:0897-65-1255  
E-mail: chiiki@city.niihama.ehime.jp

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概要版】

教育委員会名	黒潮町教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業 (研究課題) 命の教育を土台とした地震津波防災教育の推進
研究のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒が主体的に避難し自分の命を守ることができる人となるためには、小中学校 9 年間を見通した共通の教育プログラムが必要であった。</li> <li>・ 27 年度からは、このプログラムを元に各校、各教諭が、黒潮町の防災文化の醸成を目標に実践研究に取り組んできたところである。</li> <li>・ 当実践研究のねらいは、行政総体としての防災教育は、児童生徒の学力の向上やいじめの防止、生きる力の育成など、教育本来の目的を達成できるだけでなく、地域の教育力を高め、地域創生や、地域ととともにある学校づくりのために、効果的であることを、教育関係者、地域住民、自主防災会などへのヒアリングをもとに、仮説を検証するものである。</li> </ul>
研究の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>①授業研究のための作業部会の開催</li> <li>②防災教育推進のための連絡協議会の開催</li> <li>③公開研究授業</li> <li>④研究協議</li> <li>⑤防災教育研究発表会</li> <li>⑥防災教育の取組発表</li> <li>⑦防災教育実践事例集の編集</li> </ul>
研究の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>①すべての学年において、実践授業事例が提出され事例集としてまとめた。</li> <li>②小学校、中学校各代表校において、公開研究授業を実施し、作業部会において検証を行った。</li> <li>③28 年度県標準学力テスト（1 月開催）の結果においては、残念ながら小学校・中学校とも、結果の向上は見られなかった。このことから、防災教育と学力向上の因果関係については、今後の経年変化見据えつつ、十分な検討が必要である。</li> <li>④ほとんどの学校で引き続き Q-U 調査において、不満足群がゼロに近づいている。</li> <li>⑤特に中学校においては生徒に落ち着きが見られ、学習態度の向上が更に図られた。また防災に対する生徒の自主的取り組みが始まり、地域と連携した防災対策を実施することができた。</li> <li>⑥小中学校の取り組みを地域住民も参画するシンポジウムやフォーラムで発表することで、地域の学校に対する評価が向上するとともに、子どもたちの自己有用感、自己肯定感が高まり、自主的な学びの力の向上につながった。</li> <li>⑦教育長部局と首長部局が連携を取り、防災教育事業に取り組んだ結果、学校と地域との連携協働意識の醸成につながり、地区防災計画づくりに児童生徒が参画することにつながった。</li> </ul>
本件 問い合わせ先	※黒潮町教育委員会 TEL:0880-55-3190 FAX:0880-55-2851 E-mail:azechi.kazuya@town.kuroshio.lg.jp

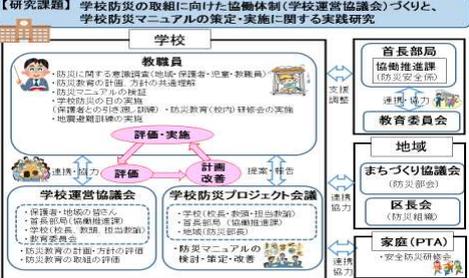


防災教育フォーラムでの佐賀中学校生徒の発表の様



研究授業後の研究協議の様

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概要版】

教育委員会名	小郡市教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業
研究のねらい	○防災担当部局と連携し、協働して学校づくりを行う体制（学校運営協議会）の組織、運営体制づくり、及び学校運営協議会の具体的な取組の企画・実施・評価の在り方を明らかにする。
研究の概要	<p>○防災担当部局と地域と学校とが連携し、協働して学校づくりを行う組織、運営体制づくり</p> <p>○学校防災の日（6月11日）の地震避難訓練及び引き渡し訓練の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1校時 各学級による防災教育の授業（保護者・地域参観授業）</li> <li>・2校時 PTA地区委員主催「地域安全・防災研修会」保護者対象 講師：九州大学大学院 附属アジア防災研究センター教授</li> <li>・3校時 災害時避難訓練（緊急地震速報放送） 保護者への引き渡し訓練</li> </ul> <p>○防災教育の授業公開及びシンポジウムの開催（11月10日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジウム：テーマ「学校・家庭・地域が連携する防災教育」 コーディネーター：福岡教育大学 教授 コメンテーター：福津市立津屋崎小学校 シンポジスト：校区協働のまちづくり協議会 防災部会長 のぞみが丘小学校 PTA会長 主幹教諭</li> </ul> <p>○防災マニュアルの作成（保護者用・児童用）・配布</p>
研究の成果	<p>○防災担当部局と地域、学校とが連携し、協働して学校づくりを行う組織、運営体制とその役割を明かにし、学校防災マニュアルの検討・策定を行うことができた。</p> <p>【右図】</p>  <p>○学校防災の日（6月11日 土曜日）の地震避難訓練及び引き渡し訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年行った地震避難訓練及び引き渡し訓練の課題を受けて、本年度の訓練を行った。そこで、次のような課題が明らかとなった。</li> </ul> <p>【1 初期対応 写真1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・揺れが収まるまでの間や次の指示があるまでの間、児童への励ましや声かけがあるとよい。</li> <li>・教師用ヘルメットを備えておくことよいことを検討。</li> </ul> <p>【2 二次対応】 → 【3 学校災害対策本部設置 写真2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドマイクからの指示が聞き取りにくかったので、四方に聞こえるハンドマイクが必要ではないか。</li> <li>・様々な天候を想定し、雨風や防寒対策も今後検討。</li> </ul>  

【4 安心メール配信】→【5 個別引き渡し 写真3】

- ・引き渡しカードをスマホに保存するという方法は、大変よい。
- ・昨年に比べて、とてもスムーズであった。さらに動線を整理すると動きがもっとよくなるだろう。
- ・引き渡し中に待機している児童への配慮が必要。



【写真3 引き渡し訓練】

【全体を通して】

- ・保護者も児童も、地域も一緒になって防災について考えられる環境をつくることができたことがよかった。
- ・「自分の所は大丈夫」という意識がまだあるので、継続的に取り組み、災害に対する意識を高めていきたい。

○防災対応能力を身に付ける授業公開及びシンポジウムの開催

「(自他の命を) 守る」「(人や地域と) つながる」「(災害に) 備える」という3つの観点から、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動等を通して、防災教育を行った。

5年生では、「備える」という観点から、学級活動の時間に、災害時に起こり得るさまざまな状況において判断を要する場面について話し合い、友達の意見や価値観を聞いて、適切な行動を考える授業を行った。防災の専門家に来ていただき、子どもたちと一緒に参加していただき、災害時の行動について話し合いを行った。【写真4】



【写真4 授業の様子】

また、公開授業後、「学校・家庭・地域が連携する防災教育」をテーマにシンポジウムを行った。シンポジウムには、市内の小・中学校、地域、保護者が参加し、意見の交流を行った。アンケートには、「学校、家庭、地域がより一層危機意識をもって連携しながら対策を考えていくことの必要性を考えさせられた」等の意見が寄せられた。

○防災マニュアルの作成（保護者用・児童用）・配布

学校が作成した防災マニュアルをもとに、保護者用【資料1】と児童用【資料2】を作成した。

学校防災マニュアルをもとに、保護者と子どもの防災意識を高め、具体的な対応を示すことができたことは、大きな成果である。

今後、継続した学校防災の日の地震避難訓練及び引き渡し訓練等を通して、マニュアルの見直しも必要である。



【資料1】



【資料2】

<p>本件 問い合わせ先</p>	<p>小郡市教育委員会教育部教務課教務係 TEL:0942-72-2111 FAX:0942-73-5860 E-mail:kyomu@city.ogori.lg.jp</p>
----------------------	--

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概要版】

教育委員会名	春日市教育委員会
研究課題	春日中学校ブロック「15年共育プログラム」の構築
研究のねらい	<p>春日中学校校区（春日中学校、春日小学校、須玖小学校）において、これまでのコミュニティ・スクールとしての活動を通じて築き上げてきた学校、家庭、地域の連携協働関係を基盤に、さらに、福祉部局、教育委員会、保育所園・幼稚園や商工会等との協働により、子どもの生活習慣の未確立や学力格差、不登校増加といった課題解決に向けたプログラムを実施する。</p> <p>また、本事業を通じて教育委員会、福祉部局間の連携強化を図る。</p>
研究の概要	<p><b>■ 各学校のコミュニティ・スクールとしての活動</b></p> <p><b>1 春日中学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ CSS（コミュニティ・スクールスタディ） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学力保障</span></li> <li>○ 部伍会集会（居住地域ごとの生徒組織） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市民性育成</span></li> <li>○ CS推進委員会 （部伍長、自治会長の行事参加協議、調整） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市民性育成</span></li> <li>○ 幼保連携の保育実習</li> <li>○ 福岡女学院大学学生による道徳授業、ボランティア</li> </ul> <p><b>2 春日小学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学力育成部 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学力保障</span> いきいき先生、サマースクール、家庭学習定着週間（年4回） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小中連携</span> 土曜教室（高校、大学、おやじの会による学習支援・キャリア教育）</li> <li>○ 心力育成部 小中合同あいさつキャンペーン（年3回） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小中連携</span> 愛好作業、ワイワイまつり（地域発表、当日運営）</li> <li>○ 体力育成部 各学年体力オリンピック、子どもクッキング教室 弁当の日（年2回、食育講演会併せて実施） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">生きる力育成</span> PTA 家庭教育宣言（年3回チャレンジ週間） <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基本的生活習慣</span></li> <li>○ 安全力育成部 おやじの会自転車教室（4年生）、縦割り遠足（全学年、自治会引率） 避難訓練・引き渡し訓練、春日中学校ブロック合同避難訓練 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小中連携</span></li> <li>○ コミュニティ・スクール成果報告会（各部会報告、文部科学省事業報告、ワークショップ「休まない・遅刻しない子どもを育てるには」）</li> </ul> <p><b>3 須玖小学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進んで表現徳育部会 あいさつ運動、すぐっこまつり 読み聞かせ、地域行事参加 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">市民性育成</span></li> <li>○ ぐんぐんのびる学力部会 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学力保障</span> すぐの子サポート先生、公民館サマースクール、家庭学習の手引き</li> </ul>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ のびのび丈夫で元気な健康部会 健康カレンダー、給食試食会、食育講座、弁当の日（<b>生きる力育成</b>） 歯磨き指導、あいうべ体操、救急救命講習、親子歴史ウォークラリー</li> <li>○ 行動で創る安全・安心支える部会 校区パトロール、アンビシャス広場、子ども110番の家、親子交通安全教室</li> <li>■ 15年子育てサポート連絡協議会（福祉部局、自治会、幼稚園・保育所園） 年4回、小中学校・幼稚園での参観・協議</li> <li>■ 学力向上対策（各校の特色に応じた展開）※再掲 春日小土曜教室、春日中CSS、須玖小サマースクール等</li> <li>■ うれしい朝月曜日」（近隣企業、商工会） 遅刻、欠席の多い月曜日に特化し、あいさつ運動展開 （登下校見守りやPTA挨拶運動との差別化・役割明確化）</li> <li>■ スクールアドバイザー事業（学校教育課、教務課） 臨床心理士による観察、検査、保護者相談、研修等実施</li> <li>■ 小中学校出前講座（幼稚園、保育園、保育所） 幼稚園、保育園、保育所の入園説明会での保護者向け講演</li> <li>■ 15年子育てサポートリーフレットの活用及び定着に向けた講演会、巡回確認</li> <li>■ 発達特性等周知リーフレット配付（子育て支援課、学校教育課、教務課）</li> <li>■ 教育委員会と福祉所管、小中学校との課題共有・連携協働 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育長トーク（春日小学校：15年共育プログラム、春日中学校：地域連携、須玖小学校：学力向上）</li> <li>○ 教育委員懇談会での学力向上策懇談でのまなびや春日、CSや放課後子ども教室での学習支援等の確認、整理、協議（教育委員、学校教育課、教務課、社会教育課）</li> <li>○ 発達支援会議（福祉部局、学校教育課、教務課） ことばの教室移転時期等確認、子ども子育て総合センター事業内容等の検討及び今後の進め方確認、発達支援担当設置に向けた検討</li> <li>○ 福祉部局による個別支援、所管間における情報共有強化に向けた策の検討 子育てカルテの発達障害に特化した内容修正、オンラインシステム統合検討</li> <li>○ 民生委員・児童委員の全校学校運営協議会委員配置（福祉支援課、教務課）</li> </ul> </li> </ul>
<p>研究の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校ごとの特色ある学力向上策実施及び全体的な学力向上傾向</li> <li>○ 不登校出現率の減少</li> <li>○ 挨拶運動や学力向上策における役割分担の明確化と学校や各組織への定着</li> <li>○ 連絡協議会でのグループ討議重視による協議の活発化及び協議を契機とした小中学校出前講座及び発達特性等周知リーフレット作成・配付の実現</li> <li>○ スクールアドバイザー個別対応による、発達検査や病院検査実施、保護者アドバイス及び支援、市通級指導教室入級の実現</li> </ul>
<p>本件 問い合わせ先</p>	<p>春日市教育委員会 教育部 教務課 教育総務担当 TEL：092-584-1128 FAX：092-584-1128 E-mail：kyoumu@city.kasuga.fukuoka.jp</p>



「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概要版】

教育委員会名	武雄市教育委員会
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業
研究のねらい	<p>首長部局等との連携から、学校・地域・行政が一体となった体制作りを図る。さらにその体制を相互便益（地域に学び・地域に貢献する）の関係で進めていくことで、連携体制の強化とともに生徒の学びや社会性の育成へとつなげる。</p>
研究の概要	<p>※昨年度に引き続き、武雄市立北方中学校を研究校に指定し、実践研究を行った。</p> <p><b>1 首長部局等と連携した幅広い分野での学習の場を設定し、豊かな心身の育成を図る。</b></p> <p>①子ども教育部教育政策課との連携          (i) 毎月、赤ちゃんや母親と交流を図る「赤ちゃん広場」を実施。          (ii) 中学3年生と地域の園児が交流を図る「育ちあい講座」を実施。</p> <p>②子ども教育部生涯学習課との連携          北方町の高齢者学級（延寿学級）との交流を実施。</p> <p>③子ども教育部文化課との連携          サービスラーニング「地域での読み聞かせ活動」について、地域から講師を招き事前研修会を実施。また、読み聞かせで使用した絵本は武雄市図書館から借用。</p> <p>④総務部市民協働課との連携          8月に「東日本大震災被災地視察研修」を実施し、10名の生徒が参加した。また研修の報告を、北方町青少年育成町民大会や武雄市トソーヤフェスティバル（青少年育成事業）で行い、市民に向けて被災地の取組や防災について伝えた。</p> <p>⑤営業部農林課との連携          中学1年生を対象とした「農業体験学習」の実施にあたり、受入農家の発掘や依頼について連携を図った。また、事前に学校と農家の情報交換会を実施し、学習内容の充実につなげた。</p>  <p><b>2 郷土に誇りを持ち郷土を愛する生徒を育成するために、地域との相互便益について研究し、サービスラーニングやボランティア活動などの地域に貢献する活動を通して、生徒のリーダー意識の醸成や健全な社会性の育成を図る。</b></p> <p>①サービスラーニング「きたがた学び舎」の実施          北方町民を対象に、中学校で3つの体験教室（英会話、切り絵、パソコン）を実施。各教室の講師を中学校教諭が務め、生徒も参加者の補助や接待を行った。</p> <p>②サービスラーニング「地域での読み聞かせ活動」の実施          地域での読み聞かせ活動を、①北方小学校全校児童に向けて、②武雄市図書館イベントで行った。読み聞かせ活動は生徒会図書部の活動に設定し、練習などこれまでより主体的に取り組んだ。</p>

③吹奏楽部による地域貢献活動

吹奏楽部が、地域行事や北方町内の施設を訪問し、演奏を通して交流を図った。

④ボランティア活動の充実

北方町の公民館分館単位で行われる「地域子ども教室」に、中学生が地域主催者の補助として参加。主に小学生への学習支援や体験活動支援を行った。

また、北方町民運動会の運営支援や地域行事「きたがたフェスタ」での募金活動などのボランティア活動を実施した。



**3 加配事務職員を中心とした地域の実態調査や情報発信を基に、地域・家庭・学校のニーズを明らかにし、それらを踏まえた学校の運営力向上を図る。**

①首長部局や関係団体と連携した学習活動実施に向けての連絡調整

②地域からの情報収集と地域への情報発信

③本事業に係る調査統計および広報活動

④本事業に係る庶務（資料作成、広報、連絡調整）

**4 基礎学力の向上や ICT 機器の先導的な活用など、学校が抱える教育課題の解決に向け、地域や保護者、首長部局との連携推進を図る。**

研究の成果

北方中学校の取組は、ここ数年地域と連携して進め、双方に根付いた活動となっている。活動の成熟とともに連携体制も充実し、今後は協力体制がますます発展・強化していくことが期待される。

取組の内容については、型どおりにならないよう注意して進めた。「単に実施する」ではなく、学校側のねらいや目的を今一度関係団体と共有しながら、より充実した内容で実施できるよう取り組んだ。また、「読み聞かせ活動」を生徒会活動に設定するなど、生徒が主体的に取り組めるような体制を取った。生徒たちは責任を持ってやり遂げ、大きな自信を得ることができたのではないだろうか。

また情報発信を充実させたことによって、地域や保護者の学校に対する理解が深まっている。「地域に開かれた学校」として進めてきた結果、PTA活動など様々な場面で学校支援の体制が強化されたと感じている。

この2年間の取組を通して、「学校・地域・行政が一体となって子どもたちを育てていく」連携体制が整ってきた。今後も改善を加えながら、取組や連携体制の充実や発展を図るとともに、学校の課題解決や学校支援に限らず、「地域課題の解決」という視点も持って、地域との協働を進めていきたい。

本件  
問い合わせ先

武雄市教育委員会 学校教育課

TEL : 0954-23-8010 FAX : 0954-23-5189

E-mail : gakkou@city.takeo.lg.jp

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概要版】

教育委員会名	有田町教育委員会	
研究課題	首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業	
研究のねらい	<p>※要点をまとめて記入してください。</p> <p>研究指定校：有田町立有田小学校</p> <p>地場産業（有田焼）の中核をなす地域である「有田内山地区」における著しい少子化に着目し、これを食い止めるために郷土を愛する心を育むことを狙いとし、「将来住みたい、働きたい」と思えるような郷土教育の充実を図る。</p>	
研究の概要	<p>※要点をまとめて記入してください。</p> <p>○ 協議会の設置</p> <p>学校職員、教育委員会、PTA 関係者、現学校評議員、首長部局職員（まちづくり課）から成る、「有田町学校運営協議会準備検討委員会」（新しい有田小学校の検討会議）を設置し、学校と地域間の連携について意見交換を行った。</p> <p>○ 教育プログラムの実践</p>	
	実施した取り組み (今年度初めて実施したものは◎)	ねらい
	◎伝統舞踊の学習 (神社宮司の指導を受け、陶祖祭で伝統舞踊を披露)	<p>・有田焼に関することはもちろんのこと、有田町にまつわる歴史や文化、自然などについて幅広く知識を広げ、見識を深める。</p> <p>・窯業の楽しさを学び、愛着心を高める。伝統を受け継ぐ意識付けをさせる。</p> <p>・有田焼が世界的に評価されていること自覚させ、その価値を認識させる。</p> 
	有田キッズ検定の実施 (有田町と有田焼に関する小冊子を用いたクイズ形式の学習)	
	やきもの教室、やきもの展 (窯業に従事する保護者を講師に迎えた焼き物の制作と、窯元を講師として招いた審査・展覧会の実施)	
◎外国人研究者との交流 (海外の博物館で有田焼の研究を行う研究者との交流会)		
◎記念Tシャツ及びのぼり旗の製作 (有田焼創業 400 年を記念したオリジナルTシャツ及びのぼり旗の製作と、運動会等の学校行事での活用)	<p>・有田町や有田焼にまつわる図案を児童自身が考えることで、故郷の特色を再認識させる。</p> <p>・Tシャツを児童が着用している姿を地域住民の目に触れさせることで、学校教育への関心を高めさせる。</p> <p>・保護者や地域住民の学校教育への参画意識を高めさせる。</p> 	
		

	<p>◎皿山祭りでのパレード (そろいのTシャツを着用し、全校児童が踊りながら町内をパレード)</p> <p>◎町有林の見学 (新校舎に使われる木材を伐採されている町有林を見学)</p> <p>◎農業体験 (西有田地域の水田や田畑にて、田植えや稲刈り、野菜の収穫体験)</p>	・故郷の自然に触れ、窯業だけでなく故郷の多種多様な特色を認識させる。
研究の成果	※要点をまとめて記入してください。	
	○ 伝統産業に対する見識の深化と広がり、及び意欲の向上がみられた。	
	やきものをつくる楽しさが分かった	74.2%
	有田焼の歴史や伝統が分かった	74.2%
	有田は日本の中でやきもので有名だということが分かった	72.5%
	有田は世界の中でやきもので有名だということが分かった	70.8%
	やきものが作られているところを見学したい	76.5%
	やきもの博物館を見学したい	62.2%
	やきものを売ってみたい	63.9%
	将来、有田焼にかかわる仕事をしてみたい	66.7% (ぜひ 11.9% できれば 54.8%) ※ 高学年のみ
	○ 窯業以外の町の魅力を認識し始めたと同時に、関心の高まりがみられた。	
	有田には山や川や田んぼなどの自然がたくさんあることが分かった	50.8%
	有田では農業(野菜や果物やお米作り)がさかんであることが分かった	47.5%
	有田にはやきもの以外の魅力のあることが分かった	63.3%
	学校の外の畑や田んぼで、お米や野菜や果物作りをしてみたい	43.7%
有田町にある山や川などを訪れてみたい	69.7%	
○ 故郷に対する愛着心や、誇り、自信を持ち、魅力を発信したいと思う意識が生まれた。		
有田のことを勉強して、有田のことが好きになった	92.5% (とても 68.3% すこし 24.2%)	
町外の友達ができたら、有田町のことを自慢できる	77.8%	
有田のことを他の町の人に宣伝したり教えたりしてみたい	61.9%	
有田のことを外国の人に教えてみたい	64.7%	
将来、有田に住みたい	83.3% (とても 23.% できれば 59.5%) ※ 高学年のみ	
本件 問い合わせ先	有田町教育委員会 学校教育課 課長 久保田 洋司 TEL:0955-43-2324 FAX:0955-42-6309 kubota-hiroshi@town.arita.lg.jp	

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概要版】

教育委員会名	嬉野市教育委員会
研究課題	就学前から就労までの滑らかな接続を目指した教育相談・支援体制の構築による特別支援教育の充実
研究のねらい	<p>公立や私立、また学校種や事業種を問わず、子育てに関連する全ての機関の共通する願いは、子どもたちの健やかで心豊かな成長であり、その部分を共有しながら嬉野市としての子育て支援体制を構築し、特別支援教育の充実を目指すことは非常に意義深いことである。</p> <p>そこで、嬉野市内に存在する機関や関係各課、幼稚園・保育所・学校が有機的に連携できるよう、それらをつなぐ役割として「早期支援コーディネーター」を配置し、関係各課との連携、外部機関との連携を深めながら、保護者と合意形成を図り、子どもの特性に応じた学びの場を決定する体制を構築する。</p> <p>学校においては、特別支援教育コーディネーターの役割を明確にし、生活の流れや授業におけるユニバーサルデザイン化を図るなど、早期支援コーディネーターと連携しながら、特別支援教育の充実を図ることをねらいとする。</p>
研究の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 関係各課との協働体制の構築</li> <li>② 関係各課、病院、特別支援学校、学校のスタッフによる就学相談の実施</li> <li>③ 早期支援コーディネーターの配置</li> <li>④ 年中幼児保護者対象の「子育て相談会」の実施</li> <li>⑤ 特別支援学級担任等、教職員に対する研修会の実施</li> <li>⑥ 保護者対象の「子育て講演会」の実施</li> <li>⑦ 各学校における特別支援教育コーディネーターの役割の明確化</li> <li>⑧ 「引継シート」の活用により、学校種間の接続・連携をスムーズにするシステムの構築</li> <li>⑨ 関係者会議の実施による、事業の内容の検討及び事業の評価。</li> <li>⑩ 就学前の保護者に情報提供ができる有効な資料（リーフレット）の作成</li> </ol>

<p>研究の成果</p>	<p>1 主な成果</p> <p>(1) 早期支援コーディネーターの配置による連携の充実  早期支援コーディネーターは、関係各課をつなぐ役割を果たすとともに、幼稚園、保育所等を訪問し、各園に在籍する支援が必要な幼児の状況について把握し、各学校へ情報提供を行った。  市内の幼稚園・保育園は全て私立であるが、早期支援コーディネーターの来園を待っており、情報交換や相談をしたいと考えている園が多い。また、学校においても早期支援コーディネーターから得られる情報は、支援の手立てを知る上で非常に貴重なものとなっている。  幼保から小学校へのスムーズな連携を図る上で重要な役割を果たしている。</p> <p>(2) 年中幼児対象の「子育て相談会」等、相談機会の充実  年長幼児対象の就学相談だけでなく、年中の時期から相談を行うことによって、保護者の理解も進み、よりよい学びの場を提供するための相談がスムーズになった。早期からの相談体制づくりは非常に重要であることが認識できた。</p> <p>(3) 「引継シート」を活用した学校種間の滑らかな接続・連携  新しい環境に適応するためには、情報共有が非常に重要になる。保護者と教職員が一緒に作成する「引継シート」には、当面の対応として有効な手立てや困り感が発生しそうな点が記載されており、受入れ側で情報共有しておくことは非常に重要である。有効活用するための体制ができつつある。  現在の小学校1年生の保護者の声として、引継ぎシートを活用した結果、小学校に入ってからスムーズに学校生活を送ることができており、授業における支援の在り方にも様々な配慮と工夫がされているという感想があった。半面、引継シートによる引継ぎを行ったはずなのに、十分な活用がなされていないという意見もあった。有効活用のためのシステム化が必要である。</p> <p>(4) リーフレット「就学の手引き」の作成による情報提供の充実  昨年度作成した「教師用の就学相談リーフレット」についてはアンケート結果により、高い有用性が認められた。保護者用のリーフレットを作成すれば必ず役に立つという思いで「就学の手引き」作成を行った。完成後は、市内の小中学校、幼稚園・保育所、就学前の幼児を持つ保護者、相談に来た保護者、関係各課等に配布する。情報共有のための有効な手段と考えている。</p> <p>(5) 特別支援教育コーディネーターの役割の明確化と校内の支援体制の充実  校内における支援会議の開催や引継シートを使った「移行支援会議」の日程調整等を行っている。滑らかな引継ぎを行う上で重要な役割を担っている。  年間の特別支援教育に関するスケジュールを示すことにより「いつ、どこで、何をやる」というコーディネーターとしての役割が明確になった。</p> <p>2 事業全体としての成果</p> <p>(1) 早期支援コーディネーターについては、非常に高い重要性が認められ、各方面から高い評価を得ることができた。今後も特別支援教育の充実を図る上で、欠かすことのできない存在である。  来年度の早期支援コーディネーターの配置については、子育て支援課で予算化が図られた。このことが、「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」という観点からは、最大の成果であった。</p> <p>(2) 関係者会議で保護者から出された意見がきっかけとなり、関係各課（学校教育課、健康づくり課、福祉課、子育て支援課）による「早期支援連携会議」が立ち上がり、毎月定例開催となった。横の連携を深める意義ある会議である。</p> <p>(3) 授業のユニバーサルデザイン化という概念が急速に広がり、支援を要する児童生徒に対する環境整備や手立ての在り方等について、各学校で様々な工夫がなされるようになった。今後もさらに工夫・改善を図っていきたい。</p>
<p>本件 問い合わせ先</p>	<p>※嬉野市教育委員会学校教育課 TEL:0954-66-9128 FAX:0954-66-5676  E-mail:gakkou@city.ureshino.lg.jp</p>